

第3回学校運営協議会議事録

校名	大阪府立市岡高等学校
校長名	辻本 利勝

開催日時	令和8年2月13日(金)16:00~
開催場所	大阪府立市岡高等学校 2階 会議室
出席者(委員)	福島秀晃会長、鍋谷賀都緒副会長、木村幹彦委員、岸野圭吾委員、 金庫利行委員、笠井やよい委員
出席者(学校)	辻本利勝校長、河村未来教頭、小田智子事務長、柴田卓首席、水野翔平首席、 島田浩史教諭、森谷晃子教諭、荒木ちひろ教諭、中野瑛教諭、江原祥太教諭、 中西玉恵教諭
協議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度 学校教育自己診断 ・令和7年度 学校経営計画及び学校評価(案) ・令和8年度 学校経営計画及び学校評価(案) ・進路に関する報告
議題等	<p>(1) 学校長あいさつ</p> <p>(2) 確認・報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">① 79期(3年次)進路状況</p> <p>(3) 協議</p> <p style="padding-left: 20px;">① 「令和7年度 学校教育自己診断」結果について</p> <p style="padding-left: 20px;">② 「令和7年度 学校経営計画及び学校評価」について</p> <p style="padding-left: 20px;">③ 「令和8年度 学校経営計画及び学校評価」について</p> <p>(4) その他</p>
協議内容・承認事項等(意見の概要)	<p>(2)確認・報告事項</p> <p style="padding-left: 20px;">① 79期(3年次)進路状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・194名(全体の73%)が推薦入試を受験。(昨年度は76%、一昨年は70%) ・〈国公立大学〉総合型選抜・学校推薦型選抜受験者16名(昨年度19名)内、合格者8名 〈私立大学〉総合型選抜16名…昨年より少し少なかった <p style="padding-left: 40px;">学校推薦型選抜 ①指定校制推薦15名 ②公募制推薦227名(のべ数)</p> <p>→共通テストを利用する私立大学が増加しており、78期生は73%が共通テストを受験した。</p>

(3)協議

〔「令和7年度 学校教育自己診断」結果について〕

Google フォームを用いて、生徒、保護者、教職員へアンケートを実施した。

(生徒) 全体を通して大幅に下がった項目はなく、「悩みについて親身になってくれる先生がいる」の項目は88%と肯定的な意見であった。

(保護者) 生徒の結果とは対照的に「悩みや相談について親身になってくれる先生がいる」の項目が下がったが、「学校と家庭間の緊密に連絡を取っている」の項目は数値が上がった。

(教職員) 全体的に肯定的な結果であった。

- ・様々な課題について、全体的に改善されているが、Chromebook の使用については昨年とあまり変わっていない。
 - ほとんどの教員が端末を用いてスライドを使用しているが、生徒が授業内で生徒間、教員間で Chromebook を使用している例がまだ少ない。教員の課題配信として使用しているにとどまる。教員が積極的に学習形態を変えていく必要がある。
- ・ロイノートなどの使用は？
 - 生成 AI はマイクロソフトの Copilot を今年から使用できるようになり、教員へ周知した。
 - ICT 教育は長い間やってきているので、現場の教員が適宜、一つのツールとして活用して取り入れていくとよりよくなる。アナログの授業と ICT をうまく組み合わせていくべき。
- ・生徒は小中でやってきているので使い方を知っているが、教員へ向けた研修は？
 - (小学校での様子) 生徒の意見を全体で共有できるツール、すぐにチャットができる、プレゼンを全員で編集できる等は研修で扱った。小学校では1年生から毎日端末を利用している。
 - (中学校での様子) スタディサプリを全員使用できるようにしているが、全教員へその使用が浸透しているかという点はまだである。頭を動かすために手を動かすことなども必要なので、バランスよく使用していく必要がある。来年度の予算のために、積極的に使用していくよう、提案している。不登校の生徒への学習保障などに活用できている。
 - 本校では3年生の授業のほとんどが演習なので、学習に集中させることが必要な場合もある。
- ・教員アンケートのカウンセリングマインドの項目について、教員は肯定的な意見だが、保護者の回答の数値が下がった原因は？
 - 保護者からのご意見は適宜把握に努めているが、現時点では明確な要因は確認されていない。
 - 昨年アンケート結果を受けて、今年は家庭連絡をこまめに行った。
 - 生徒の回答は88%と高い数値なので、生徒の受け止めは概ね良好であることがうかがえる。
 - 生徒の回答と保護者の回答に乖離が生じることは、小・中学校を含め幅広い教育段階でもしばしば見られる傾向であるため、この点は今後も継続して注視していく。

〔「令和7年度 学校経営計画及び学校評価」について〕

- ・今年度より「総合的な探究の時間」を本格的に始動した。次年度からは学校教育自己診断の生徒用のアンケートに探究活動への取り組みについての項目を追加する予定である。
- ・中学生のオープンスクールへの参加数が昨年より少し減少。推薦入試など中学生の受験方法も変わってきており、オープンスクールの参加人数を増やしていくことは厳しいのではないか。
- ・「問題事象に対する組織的で迅速な対応」に対する教員の肯定率が90%と高く、教員のストレスが少なく働くことができている。
- ・時間外在校時間に関しては個人差があるが、業務の分担などはおおむね公平にできており、心身を病むほど無理な働き方をしている教員はいない。部活動に取り組みたい教員もいる。

〔「令和8年度 学校経営計画及び学校評価」について〕

- ・大きな変更点は中期的目標の進路実績について、従来まで国公立大学合格者数の目標人数を挙げていたが、来年度は国公立・関関同立への実進学者数をR9年度までに100名以上とした。国公立大学だけではなく、私立に行くなら関関同立を目指す指導を行っていく。また、延べ人数ではなく実進学者数を目標数値にした。これまでの市岡高校の指導の中で大きな転換期になる。
 - 理数教育も積極的に行ってほしい。企業で問われる能力なので。
 - 市岡高校では文系志望が多く、理系は40名程度。だが、理系の基礎的な知識が身につく指導を行ってほしい。

(その他)

- ・今年度はPTA広報の特別号として部活動特集号を作成。広報に活用していく。
- ・競技かるた部がベイコムで特集された。本日より、アプリからも閲覧可能。